

偕行現代考

高くて悪いが…

奥村 快也 陸自70

ハヤブサ2がリュウグウに弾丸を射ち込みクレーターを造った。この技術は対戦車榴弾の応用である。JAXA、マスコミ等は、防衛技術が応用されたとは言わないが、防衛装備品の国産技術が生かされている。

三菱電機に再就職した同期生が、ミリ波レーダーの技術が車の衝突防止装置に応用されていることを教えてくれた。ミリ波レーダーの国内導入は、口

ングボウアパッチの搜索レーダーをライセンス生産することで、三菱電機が研究を始めたものであり、当時のミリ波レーダーは、大きな部屋いっぱい研究装置を展開していて、価格も億の単位で、本場にヘリコプターのシャフトの先のレドームにコンパクトにまとまるだろうかと思ふんだ思い出がある。それが、現在は安価になり年間生産数何十万台の車に応用されているのである。

戦車の開発にしても、61式戦車から始まり、74式、90式、10式と4世代の戦車を作成したことにより、世界のどの国の戦車と比較しても遜色のない装備品が出来たのである。

対戦車誘導弾にしても、64式対戦車誘導弾から始まり、79式、87式と改良が重ねられて、中距離多目的誘導弾に受け継がれてきた。

類例を挙げればきりが無いが、それぞれの初期型は値段が高くて性能が悪く、ユーザーからは使い勝手が悪いと、悪評芬々たるものがあった。それでも開発が進められるに従って、性能が向上し、使い勝手も良くなって来た。開発が代を重ねることによりそれぞれの装備品は性能も向上し洗練され、技術も蓄積されてきたのである。

当然、ユーザーが自衛隊しかなく、少量生産なので、値段はアメリカなど

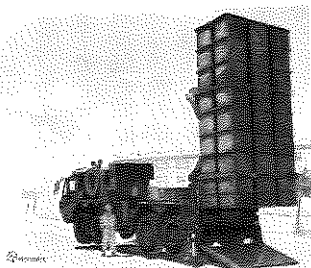
の装備品に比べれば高くなるのはやむを得ない。

しかし筆者は高くて悪くても国産装備品にこだわりたいのである。技術は一朝一夕には出来ないからである。そして真の国防力には技術力も当然含まれるからである。

最近、アメリカとの関係と日本の技術力が不十分な分野でFMS（対外有償軍事援助）による導入が、イージス・アショアやオスプレイで行われている。基本的に国際関係や、同盟関係の外交も国防の重要な分野であるので、それを否定するつもりはない。

しかし、軽装甲機動車からの撤退などを表明する企業などが出てくる事態などは、防衛産業の将来に国内企業が見切りをつけたと考えられても仕方が無いのである。

もう一度言う。技術力は一朝一夕に出来ない。そして技術力こそが国の防衛力の重要な基盤となるものである。



03式中距離地对空誘導弾